

## 23. PTCA 施行前における梗塞部位再分布の意義

三谷 勇雄 西村 恒彦 植原 敏勇  
 林田 孝平 千葉 博 松尾 剛志  
 (国循セ・放診部)  
 住吉 徹哉 土師 一夫 (同・心内)

梗塞心筋部位において、PTCA 前の  $^{201}\text{Tl}$  運動負荷心筋シンチグラフィ再分布所見が PTCA 後の心筋血流の改善を的確に表現しているかどうかを検討した。対象は以下の条件を満たした22名 (M:F=18:4, age 53±10)。

(1) 心筋梗塞の既往を有する。(2) 心筋梗塞部位責任冠動脈の有意狭窄に対して PTCA 施行し初回成功。(3)  $^{201}\text{Tl}$  運動負荷心筋シンチグラフィを PTCA 施行前および後1か月以内に施行。(4) その後 CAG 再検査により再狭窄を認めない。なお、対象の病変数は一肢12例、二枝7例、三枝3例、また PTCA 施行冠動脈は LAD 17例、RCA 5例である。

PTCA 前の梗塞部位再分布が、PTCA 後の心筋血流の改善を的確に表現し得たかは次のように分類した。梗塞部位再分布が PTCA 後の改善された初期分布と同程度の場合、評価相応例とした。また、梗塞部位再分布以上に PTCA 後の改善が認められた場合を過小評価例、逆に再分布以下の程度の改善しか認めない場合を過大評価例とした。22 症例の22 梗塞領域において評価相応群14例 (64%)、過小評価群7例 (32%) および過大評価例1例を認めた。PTCA 前負荷心筋シンチグラフィでは梗塞部位再分布陰性例をおのおの2例、1例、0例認めた。これらは梗塞後狭心症を有する3例であった。PTCA 後は全例再分布陰性であった。梗塞心筋部位における再分布所見は約2/3の症例で PTCA 後の心筋血流の改善を表現していた。また約1/3の症例で PTCA 後の改善を過小評価したが、このような過小評価される症例の特徴は明らかにできなかったが、血流障害以外に severe ischemia 等による代謝、細胞レベルでの異常の可能性も考えられ、今後の検討が必要と思われた。

## 24. 急性心筋梗塞、不安定狭心症における安静時再分布の意義

植原 敏勇 西村 恒彦 林田 孝平  
 三谷 勇雄 千葉 博 松尾 剛志  
 (国循セ・放診部)  
 住吉 徹哉 土師 一夫 (同・心内)

虚血性心疾患における安静時/再分布時 (Rest/RD) 心筋シンチグラフィの意義・有用性およびその適応について検討した。対象は、不安定狭心症17例、急性心筋梗塞5例、運動負荷 (EX/RD) 心筋シンチグラフィで梗塞部に不完全再分布を認めた9例、その他12例である。診断は視覚的評価に加え、ROI法による定量的評価を併用して診断した。この結果、不安定狭心症のコントロールされていない症例では、14例中10例 (71%) に虚血を検出した。特に再分布時に filling in が十分でない症例は翌日急性心筋梗塞を発症しており、このような高度の虚血を検出するにも有用と考えられた。一方、不安定狭心症もコントロールされてしまった症例では、虚血は検出できなかった。急性心筋梗塞直後は、不安定狭心症のある症例はいうまでもなく、ない症例でも虚血 (Rest で defect, RD で fill in) または梗塞 (Rest で defect, RD で fill in なし) のパターンを示し、後日改善する症例が多かった。これは stunned myocardium の関与があるためと考えられた。また冠動脈高度狭窄群でも不安定狭心症の要素が全くない症例では、washout rate は低下しない。したがって Rest/RD 心筋シンチグラフィは、EX/RD 心筋シンチグラフィと異なり冠動脈狭窄度を反映しない。したがって不安定狭心症の急性期に PTCA をする場合など、その責任冠動脈を同定するのに Rest/RD 心筋シンチグラフィが有用である。

## 25. 労作性狭心症における胸痛・負荷心電図・負荷心筋シンチグラフィの関係

松尾 剛志 西村 恒彦 植原 敏勇  
 林田 孝平 千葉 博 三谷 勇雄  
 (国循セ・放診部)  
 住吉 徹哉 土師 一夫 (同・心内)

タリウム負荷心筋シンチグラフィにてタリウム灌流分布所見と負荷心電図所見との不一致症例について詳細に